

㊦D—10 食生活指導のための背景調査（第3報）

福井大 ○鑑本 温美
松村 文代

1. 食生活の実際的指導にあたっては、単に摂取栄養量を検討するだけでなく、その背後から食生活を規制している社会経済的、心理的要因を考察する必要があるという考えのもとに、一連の調査研究を行ない、その一部は既に第1、2報として報告した。今回は、それに続くもので調理技術伝達経路と調理担当者の心構えに関する調査結果の報告である。

2. 自然、経済、文化的条件の異なる3地域から任意のグループを抽出し、質問紙法によって得たデータを統計学的に処理し検討した。

3. 調査担当者の技術伝達経路について……地域、教育の新旧、学歴、収入、食費、職業別いずれの場合も母よりの経路が最も多かったが、教育程度の高い者は書物、テレビなどにより自ら修得する割合も高い。また農業率の高い地域では婦人会、姑などから習得する率が高い。

調理をする際の担当者の心構え……一対比較法で得た得点順位では、全体として嗜好を重視している傾向がみられたが、収入、職業、地域等の別によって栄養を重視するものと費用や手間を重視する者との割合に一定の傾向があった。